

中大脳動脈閉塞症における CT 血管造影とデジタルサブトラクション血管造影の比較

◆研究の目的と概要◆

急性期脳梗塞に対する血管内治療において、脳の血管径に適したカテーテルを選択することが重要です。カテーテル脳血管造影で得られたデジタルサブトラクション画像による血管径が最も正確とされていますが、侵襲的かつ時間がかかるという課題があります。CT 血管造影は、非侵襲的かつ迅速に施行出来るという利点がありますが、血管径の計測精度に限界があると言われています。本研究では、急性期脳梗塞の患者さんのうち中大脳動脈閉塞症に対する血管内治療を受けた患者さんにおいて、CT 血管造影とカテーテル脳血管造影で得られた血管径の比較検討を行います。これにより、CT 血管造影のみでどの程度適切なデバイス選択が可能かを明らかにし、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2020 年 1 月から、2023 年 12 月までの間に、当院で中大脳動脈閉塞症と診断された方に対して機械的血栓回収療法を施行された患者さんが対象となっています。

◆研究に使用される情報・試料◆

年齢、性別、身長、体重、手術施行日、術前の modified Rankin Scale を用いた生活自立度、脳梗塞の重症度、既往歴、嗜好歴、搬送経路、閉塞血管、脳血管閉塞の病型、術前と術後の CT と MRI、術後の頸動脈および心臓超音波検査、血液検査所見、アルテプラーゼ投与の有無、カテーテル治療に用いた血栓吸引カテーテルもしくはステント型血栓除去デバイス、機械的血栓回収療法の手技の内容、手技の血管撮影所見、手技に関連する時間（手技前時間、手技時間、手技開始から有効再開通までの時間）、血栓回収療法の治療経過、合併症（血管解離、穿刺部出血、術後脳出血）の有無、90 日後の生活自立度、閉塞部血管径、中大脳動脈近位部径、内頸動脈径

◆情報の研究利用開始日◆

2025 年 12 月 1 日 以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録と画像所見からの情報を用いて実施します。

- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
- * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

脳神経外科・脳卒中科 研究責任者 赤池 夏樹

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明